

日本農業新聞

日本農業

(第3種郵便物認可)

書評

北海道の酪農家との交流がリアルに描かれるのが、後半の実践編

の酪農の魅力をリアルに描く。ページを発信している。

よせ道書店



ニッポンはおいしい!

金丸弘美・著

「食と農から未来は変わる。地域に豊かさをもたらす女性たちの活躍」と銘打った書籍だ。女性が主役の、農業と食から持続社会につながる「実践活動リポート」となっている。

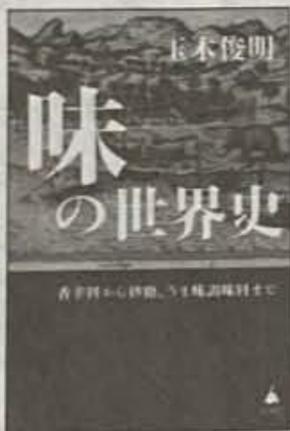
基となったのは、上野千鶴子・東大名誉教授が理事長をしている「WAN(ウイメンズアクション ネットワーク)」でのウェブ連載「金丸弘美のニッポンはおいしい!」である。農の現場取材してきた著者が、各地の農村女性の活躍をまとめている。農業と食から持続社会につながる活動をしている女性たちを、6章を各章2人ずつ、計12人に分けて掲載する。創意工夫を生かすチャンスがあれば、さまざまな成果を生み出せる、そんな可能性を知ることができる。

(理工図書、2000円)

味の世界史

玉木俊明・著

副題は「香辛料から砂糖、うま味調味料まで」。本書の目的は、味の歴史、食の歴史、世界観の歴史、輸送の歴史、産業革命の歴史に踏み込みながら、古代、中世、近世、近代から現代までの、味の世界史を論じることだという。



本の構成は、「はじめに」で、「なぜ『味』で世界史をたどるのか」を提起。続いて「香辛料貿易のはじまり」「香辛料貿易とヨーロッパ」

「ヨーロッパの拡大」「香辛料から砂糖へ」「砂糖と資本主義経済」「第二次産業革命がつくりあげた世界」、そして「おわりに」で「諸島から見た世界史」を展開する。本書を通じて、「味」が世界史を動かしてきたというテーマを掘り下げ、そこから食の多様性がどう成立したのかを知ることになる。

(SB新書、1045円)



ブルー・マシン

ヘレン・チェルスキー・著

副題は「海というエンジンと人類史」。著者は英国マンチェスター生まれの物理学者。本書は海ブルー・マシンを、地球のエンジンとして位置付ける。その海は、太陽エネルギーを受けて、それを交換・放出し、大気中の水分、気温などのあらゆる地球環境をつくり出しているのだ。

ところが、人類による環境破壊により、精緻なシステムは限界を越え、温暖化や異常気象をはじめ、地球規模の危機が訪れている。わが国でも洪水や台風などの自然災害が深刻化を増すばかりだ。そんな現代、地球の環境問題を解く鍵は「海」にあるとし、それを知る必要があるというのだ。本書は、人類が進むべき道筋を探るための「はじめの一冊」だ。

(エイアンドエフ、3520円)

タネまく動物

小池伸介、北村俊平・編著
きのしたちひろ・イラスト

副題は「体長150センチメートルのクマから1センチメートルのワラジムシまで」。種子(タネ)の散布に関わる動物と植物の関係について、近年次々と新しい事実が明らかになってきているという。食べられて、ためられて、くつついて……。タネをまく動物と植物は、どのように進化してきたのか。生態系での動物と植物の相互作用の、象徴的な現象である



「種子散布」に関する最新の研究を紹介している。

ツキノワグマや猿、コウモリなどの哺乳類、カラスやヒヨドリなどの鳥類、糞虫、ワラジムシなど、20種類以上の多種多様な動物が登場し、タネの散布の真実に迫る。絶妙なバランスの上に成り立つ自然界の不思議を実感できる。

(文一総合出版、1980円)